第2号

韮山高校野球部年報
OB会報

龍城球児

平成10年度を振り返って

島田商業の57年ぶりのセンバツ出場で幕を明けた平成10年の春、本校は東部大会に臨んだが、1回戦で伊豆中央に惜しくも敗れた。

夏の大会は1回戦で森高と対戦、序盤で先制されるも6回裏に逆転し流れをつかんだかに見えたが、8回一気の猛攻を受け、4年振りの初戦敗退となった。

夏連覇を狙う浜松工と5年振りの優勝を目指す掛川西の対戦となった県大会決勝は掛川西が勝ち5回目の夏の甲子園出場を果した。甲子園では、横浜高校が松坂投手の活躍で春夏連続優勝を飾り、大会を盛り上げた。

さて、新チームにとってのスタートとなる秋の東部大会では、3回戦に進んだものの、あと一歩で県大会出場を逃した。今年も、夏の甲子園を目指して闘う龍城球児たちの活躍に期待したい。

平成11年3月
韮山高校野球部OB会事務局

平成9年度OB会事業報告
（平成8年8月1日～平成9年7月31日）

1 主な行事

H9・8／30　平成9年度OB総会
H10・3／14　龍城球児（野球部年報・OB会報）第1号の発行
3／14　卒業生入会式
5／22　野球部父母会総会（父母会主催）
6／27　夏の県大会激励会（父母会主催）

2 会員数及び会費納入状況
（平成10年7月31日現在）

●名簿掲載　513名（うち所在不明・永眠者54名）
●実会員数　459名
●会費納入状況（平成9年8月1日～平成10年7月31日）
平成9年度分　208名　六七二、〇〇〇円

収支決算報告

収支決算書（平成9年8月1日～平成10年7月31日）　単位：円

収入の部	金額	摘要	支出の部	金額	摘要
前期繰越	212,842				
年会費	47,000	H8年度　15名	部活動援助等	209,725	ボール13ダース他
	672,000	H9年度　208名	OB会報発行	94,500	東海印刷600部
雑収入	63,000	百周年記念誌　8冊	卒業生入会式	36,000	図書券12名分
		甲子園記念誌　2冊	弔費	74,791	4件
預金利息	135	静銀普通	会議費	75,708	野球部長等との懇談会
			通信費	109,300	別納2回他
			事務費	63,381	コピー、事務補助他
			雑費	45,465	毎日新聞広告、送金料
			次期繰越	286,107	
合計	994,977		合計	994,977	

平成10年度　韮山高校野球部OB会収支予算
（平成10年8月1日～平成11年7月31日）　単位：千円

収入の部	10年度予算	支出の部	10年度予算
前期繰越	286		
年会費	750	部活動援助等	300
雑収入	50	OB会報発行	95
預金利息	1	卒業生入会式	50
		弔費	—
		会議費	80
		通信費	150
		事務費	90
		雑費	50
		予備費（次期繰越）	272
合計	1,087	合計	1,087

●発行者　韮山高校野球部OB会
●事務局　三島市芝本町11－29　レストランじゅん内
●印刷所　株式会社 東海印刷

高校51回卒業生特集

部　長	久嶋　宏幸	
副部長	牧野　博充	
監　督	岩科　泰弘	
守備位置	**氏　名**	**出身中学**
投　手	安倍　秀行	韮　山
一塁手	南條　和由	中　郷
二塁手	◎山田　大	天　城
三塁手	大沼　隆則	長井崎
左翼手	渡辺　洋介	中郷西
中堅手	梶山　正浩	大　仁
右翼手	榎本　元	函南東
遊撃手	中島　邦博	山　田
右翼手	勝呂　佳正	函　南
捕　手	宮浦　誠治	山　田
左翼手	渡邉　和也	山　田
二塁手	佐々木秀徳	三島南
投　手	雑賀　厚至	清　水
三塁手	武井　延裕	函南東
一塁手	服部　明之	戸　田
マネージャー	波多野次美	錦　田

韮高野球部三年間の意義

監督　岩科　泰弘

本年度の夏の大会においては、残念ながら四年ぶりの初戦敗退を喫してしまいました。常勝韮高野球部を掲げてきた理由は、本年度の結果にあるように、高校野球初戦突破の厳しさを私自身の高校三年間と他校での野球部在任時代に、痛感していたからです。まずは初戦を何とか一回戦はと誰もが思いながらも半数のチームは敗れてしまうわけで、だからこそ今回つくづく感じましたことは、勝敗とは別のところにある高校野球の意義であり、韮高野球部三年間を大切にできる精神の重要性についてでした。より具体的に言えば、自分のこの三年間を誇れるか、人生の活力にできるかどうかということです。自分としては、部員たちに韮高野球部三年間をぜひ誇ってほしい。人生の活力にしてほしいと思っています。

夏の大会登録は選手十八名まで、ベンチ入りはマネージャーを含めた部員十九名。本年韮高野球部員は四十九名でした。そして、三年生の中からもベンチ入りを外しての大会出場となりました。それだけに何としても勝利を手にしたいと誰もが思っていたでしょう。甲子園出場を決めた時もそうでした。いや、毎年がそうなのです。熱い思いを胸に秘め、勝負をかけて戦うのです。やり直しのできない勝負を。野球部員全員の魂で。それだけに尊いのです。

新チームは、三年生の魂を受け、秋季大会をよく戦いました。残念ながら一勝が足りず県大会出場はなりませんでしたが、着実に現在も実力を伸ばしています。本年度の夏の大会の敗戦、あと一勝で逃がした県大会出場と、その思いは冬練の中で充分生かされています。春の大会の一勝は、限りなく夏の大会の一勝に近づくものであります。どこのチームも努力を重ねているわけで、厳しい戦いは必至です。技術能力以外の力の重要性を信じながら、韮高ならではの野球を追求していきたいと思っております。

戦績表　平成9年秋～平成10年夏

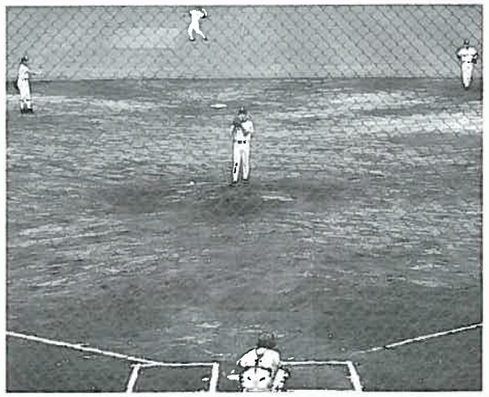
試合日	韮高―対戦校	韮高―対戦校	備考
8/2	5-11(修善寺工業)	7-14(東海大工)	
8/7	4-3(伊豆中央)	2-2(伊豆中央)	
8/8	10-3(富士宮東)	11-11(富士宮東)	
8/10	3-6(田方農業)		
8/13	11-10(長　泉)	4-4(長　泉)	
8/16	12-4(富　士　東)	秋季東部大会第1回戦	
8/23	0-5(富士宮北)	秋季東部大会第2回戦	
8/31	3-2(富士宮東)	秋季東部大会敗者復活戦	
9/7	3-4(沼津工業)	秋季東部大会敗者復活戦	
9/21	1-2(沼津学園)	2-5(沼津学園)	
9/27	1-0(伊豆中央)	5-6(島　田)	
9/28	6-0(御殿場南)	3-2(静岡農業)	
10/5	6-6(磐田南)	0-6(磐田南)	
10/10	2-1(浜松北)	6-16(湖　西)	
10/11	2-5(浜　名)	3-9(浜　名)	
10/19	9-5(焼津水産)	17-6(富　士　東)	
10/26	7-5(沼　津　東)	7-7(沼　津　東)	
11/3	8-1(新　居)	8-1(小　山)	
11/8	3-2(沼津工業)	5-6(沼津工業)	
11/9	6-9(静　岡)	2-5(静　岡)	

初戦敗退で得たもの

部長　久嶋　宏幸

韮山高校が甲子園で戦っている姿を見て、自分達も、と入学してきた生徒が今年最後の夏を戦った。これぞという核がない代わりに、全員が自分の力を出し合いながら、チームワークを固めつつまとまってきた集団である。結果は、残念ながら初戦敗退、あの悪夢といわれる八回であった。グランドにいる者も、ベンチにいる者も、スタンドにいる者も、あの何ともいえぬ圧力を感じていたに違いない。無情ともいえる時がグランドを通過している時、各々の胸中にあるものは一体何だったのか。挫折感か、敗北感か、それぞれが感じたものが事実であろうが、しかし、最後まで諦めず戦い抜いたことも事実である。ベンチに入いれず、スタンドで声援を送ってくれた3年生も、最後まで共に戦い、高校野球人生を終えた。この二年半の全てが事実であり、それぞれの心に深く刻まれるであろう。今後、どこかで必ずこの体験が役に立つ時がくる。直接的でなくても、記憶のどこかにこの体験が残っている限り、自分の芯の一部分になっていると思う。

新チームはあと一歩で県大会を逃したが、やはりあの夏の体験を生かし、又3年生の意志を受け継いでいる。今後、この新しい集団の進む方向をゆっくりと見つめていきたい。



三年間を振り返って

主将　山田　大

僕が中三の夏、韮山高校が甲子園でベスト十六進出を果たした。実際足を運ぶことはなかったが、韮高野球部への入部と自ら甲子園の土を踏むことに固く決意したのだった。硬式への不安など、さまざまな不安にまさって期待が大きかった。偉大な先輩を目のあたりにしながらも、技術的にも人間的にも成長せず、逆に頭を使わない一年として迷惑をかけ続けた。闘志を表に出せず、思うような結果も残せなかったものの、県大会出場校との練習試合により確かな自信を抱いて、夏の大会、森高校との初戦を迎えた。先制されるも逆転し楽しんでいた矢先、守りに入ったのか、冷静さを失い失点を重ね魔の八回となった。敗戦が信じられず、また高校生活最後の試合にしてはもの足りないまま後悔の残る結末となってしまった。だがしかし、この韮高野球部で学んだ数々は、一生心の中に残り生き続けていくだろう。また苦しみを共にしてきたこの仲間たちも一生の誇りとなるだろう。今後後輩たちには、短い時間で内容の濃い練習をして再び「韮山」の名を全国に轟かせてほしい。今まで支えてきてくれた監督、部長、父兄の皆さん、後輩に感謝したい。

試合日	韮高―対戦校	韮高―対戦校	備考
11/16	3-6(清水市立商業)	0-0(清水市立商業)	
11/22	12-10(吉原商業)		
11/23	11-6(三　島　南)	6-12(三　島　南)	
3/15	1-2(伊豆中央)	3-2(島　田)	
3/22	4-3(三　島　南)	三島・田方大会第1回戦	
3/25	3-2(秋田大館鳳鳴)		
3/28	3-6(木　更　津)	2-4(藤　枝　北)	
4/1	1-4(伊豆中央)	春季東部大会第1回戦	
4/11	7-0(吉原工業)	7-7(吉原工業)	
4/12	8-7(御殿場西)	3-7(清　水　東)	
4/19	3-8(富士宮東)	0-4(富士宮西)	
4/29	1-7(立花学園)	7-5(藤　枝　東)	
5/4	6-0(静　岡　北)	7-3(裾　野)	
5/9	0-2(長　泉)	三島・田方大会第2回戦	
5/9	12-2(天竜林業)		
5/10	4-4(吉原商業)	3-6(鎌　倉)	
5/24	7-3(島　田)		
5/30	2-10(田方農業)		
5/31	3-10(清水市立商業)	4-10(磐　田　西)	
6/6	6-3(日大三島)		
6/7	0-5(修善寺工業)	0-14(修善寺工業)	
6/13	3-2(伊豆中央)	定期戦	
6/21	4-6(三　島　南)	2-11(伊豆中央)	
6/28	5-10(静　岡　南)	8-9(御殿場南)	
7/4	2-5(沼津学園)		
7/5	9-2(長　泉)	0-5(伊東商業)	
7/8	9-6(沼　津　東)	定期戦	
7/19	4-12(森　)	選手権静岡大会第1回戦	

森8回一気9点　韮山を破る

▽焼津（第4試合）

森	0	1	2	0	0	0	0	9	12
韮山	0	0	0	1	1	3	0	0	5

▽本塁打　萩原（韮）
▽三塁打　米山（森）春山（韮）
▽二塁打　鈴木康修（森）安倍（韮）
▽暴投　雑賀2（韮）
▽野選　雑賀（韮）
（八回コールド）

▽試合時間　2時間43分

【評】きん差の勝負と思われた試合は、森が終盤、一気の猛攻を繰り広げ、韮山をコールドで下した。

2点を追う森は八回、四球を足掛かりに8長短打を集めて9点を挙げ、大逆転を演じた。送った打者は13人。その裏の韮山の攻撃も山崎がゼロで抑えた。韮山は六回、代打安倍の3点適時打で逆転し、いいムードで終盤を迎えたが、球威が衰えた雑賀がつかまり、集中打を食い止めることができなかった。

【森】	打	安	点
戸塚	6	2	0
永井	5	1	1
山崎	3	1	
鈴木康修	3	1	
米山	5	3	1
鈴木康弘	5	3	4
堀	4	2	0
窪内	4	2	0
山野田	3	1	3
田	4	1	1
計	39	18	11

【韮山】	打	安	点
梶	4	1	1
秋山	4	1	0
渡辺	3	1	0
萩原	4	1	1
大沼	4	1	0
山田	4	1	0
雑賀	1	1	0
渡辺	3	1	0
春山	3	1	0
松岡	2	0	0
榎本	2	0	0
安倍	1	1	3
計	32	10	5

【森】	2	5	3	4	1	1	2
振球	犠	盗	失	残	併		
4	3	0	3	2	6	0	

【韮】

韮山

一発屋で終わらないために！

本当につかみ所のないチームである。瞬時瞬時で「顔」が違う。まさしく感覚派のチームである。理屈に弱い。型にはまるともっと弱い、アバウト集団。しかし、常識では考えられない生命力がある。ダメージであるはずのものが、彼らにはダメージとはならないのである。

野球をやってきたはずの彼らであるが、そこで見せてくれたものは人間模様の縮図である。彼らの野球は一喜一憂、喜怒哀楽のドラマ仕立て。スマートな野球にならないのである。つまり、そこには絶対性がないのである。何らかのスタイルを求めてきたが、それを求めることが無理というものであったのだ。

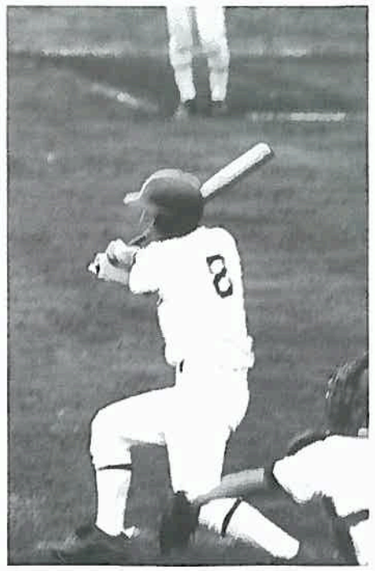
そんな彼らは「一発屋」。しかし、それで終わらないために大切にしてきたものが、「精神野球」。肉体と精神の充実をはかり、彼らの人間性あふれる野球で、「熱い夏」をより「熱く」、そして、限りなく勝ち続けるのだ。

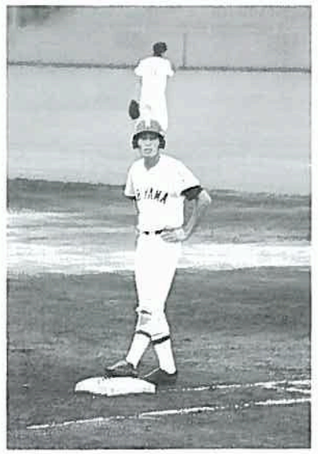
ネット裏よりひと言

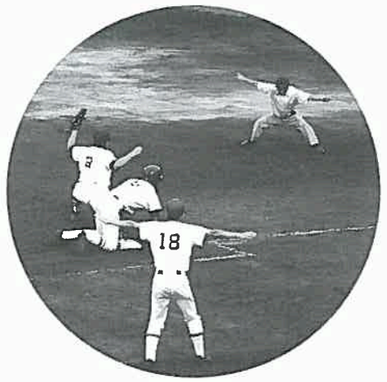
今年も高校球児の憧れと夢の舞台、甲子園への出場かけて熱い戦いが始まります。汗と泥に混みれての三年間の集大成、先輩達から受け継いだ『考える野球』と伝統である『のびのび野球』で悔い無い試合をしてもらいたい。君達の青春の1ページに最高の感動が沢山残せる様にガンバレ。そして燃えつきろ、龍城健児！我々、父母会もOBの皆様方と共に一致団結し精一杯応援致します。

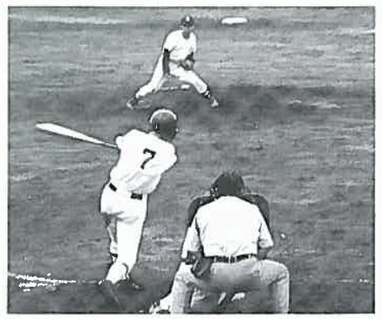
（父母会会長　梶山悦朗）

部長	久嶋宏幸	
副部長	牧野博文	
監督	岩科泰弘	
（投）	安倍秀行	3
（捕）	春山周平	2
（一）	南條和由	3
（二）	山田大	3
（三）	大沼隆則	3
（遊）	秋山雄生	2
（左）	渡辺洋介	3
（中）	梶山正浩	3
（右）	榎本元	3
（控）	雑賀厚至	3
（〃）	渡辺佑規	2
（〃）	松岡賢志	2
（〃）	萩原悠太	1
（〃）	蔭山義人	2
（〃）	武井延裕	3
（〃）	遠藤浩一	2
（〃）	藤原晃佑	2
（〃）	中島邦博	3









現役チーム紹介

夏に向かってテーマを持って勝つ為の練習を

主将　秋山雄生

秋の大会で目標としていた県大会出場をあと一歩というところで逃してしまってから、ずっと春の大会で県大会に勝ち進み、そしてシード権の獲得を目指して、日々練習に励んでいます。

このチームは、他のチームに比べて体格が小さく、力不足なので、この冬は筋肉トレーニングを重点的にやり、ホームランを打てるパワーを身に付けようと頑張っています。

また、外野の守備に不安があるので、この冬は、その強化をしていこうと思っています。内野においては、守備の連係や、声の掛け合いを確実なものにして、ミスのない様にしていこうと心掛けています。そして、チーム全体としては、キャッチボールなどの基本動作の中にも、それぞれが自分のテーマを持つことにより、ただ漠然と練習するのではなく、より密度の濃い練習ができるようになってきました。

チームとしては、技術面や精神面においてもまだまだ未熟ではありますが、夏の大会に向けて、チーム一丸となって優勝を目指し、より一層のレベルアップをしていきたいと思っています。

部長	久嶋宏幸	
副部長	牧野博文	
監督	岩科泰弘	
守備位置	氏名	学年	出身中学
三塁手	春山周平	3	清水
遊撃手	◎秋山雄生	3	函南
左翼手	藤原晃佑	3	宇佐美
右翼手	薩山義人	3	山田
一塁手	上條恒	3	清水
捕手	松岡賢志	3	修善寺
投手	渡邊佑規	3	大仁
三塁手	大川充浩	3	伊豆長岡
投手	遠藤浩一	3	函南東
左翼手	小川幸希	3	仁科
三塁手	直井智幸	3	清水
捕手	千葉純	2	函南
右翼手	古田雄祐	2	清水
二塁手	渡辺経士郎	2	伊豆長岡
右翼手	渡辺慎治	2	函南

守備位置	氏名	学年	出身中学
一塁手	萩原悠太	2	大仁
中堅手	小林理人	2	清水南
一塁手	近藤宏史	2	清水南
投手	佐藤裕剛	2	伊豆長岡
遊撃手	渡邊剛	2	大仁
二塁手	植田知行	2	中郷
投手	渡邊亨一	2	函南東
中堅手	村上恵佑	2	大仁
捕手	秋元希	2	函南
左翼手	稲村貴慶	2	函南
投手	芹澤直樹	2	北上
投手	舟田宏明	2	函南
中堅手	真部拓也	2	三島北
遊撃手	山田景照	2	熱海
捕手	露木暢	2	東海大学第一
マネージャー	清水誓子	3	修善寺
マネージャー	豊岡温子	2	三島北

現役チーム　戦績表

平成10年８．１～現在

試合日	韮高－対戦校	韮高－対戦校
8／1	4-1　引佐	3-4　大井川
8／3	10-0　岡津	
8／6	6-2　日野台	6-2　日野台
8／8	5-2　吉原工業	5-12　吉原工業
8／9	11-5　山手学院	4-5　山手学院
8／13	10-3　三島	秋季東部大会第１回戦
8／16	6-4　御殿場	秋季東部大会第２回戦
8／19	4-4　島田	2-11　島田工業
8／22	3-2　沼津工業	秋季東部大会第３回戦
8／25	7-3　三島南	6-7　三島南
8／29	2-8　日大三島	秋季東部大会第４回戦
9／6	9-9　静岡市立商業	1-8　静岡市立商業
9／12	0-11　富士	秋季東部大会敗者復活戦
9／20	13-1　裾野	4-13　裾野
9／26	3-3　長泉	5-5　長泉
10／3	4-13　伊豆中央	
10／4	1-5　富士宮西	1-1　富士宮西
10／10	10-10　興誠	3-4　興誠
10／25	0-3　島田	4-17　藤枝明誠
10／31	5-5　修善寺工業	
11／1	3-1　島田学園	
11／8	8-2　伊東城ヶ崎	4-21　伊東城ヶ崎
11／14	15-6　沼津商業	三村杯第１回戦
〃	4-2　吉原工業	三村杯第２回戦
11／15	8-2　富士宮西	三村杯第３回戦
〃	5-14　沼津工業	三村杯第４回戦
11／22	3-7　富士宮北	三村杯第３位決定戦

平成11年度　野球部試合予定表

月	日	対戦校	時間	対戦校	時間	会場	備考
3	21(日)	長泉				伊豆中央	三島田方地区大会
	22(月)	準決勝		決勝			三島田方地区大会
	24(水)	三島南		三島南		韮山球場	
	29(月)	木更津	9：00	島田	14：30	韮山球場	
4	1(木)	富士東	11：30			吉原商業	東部大会第1回戦
	4(日)	伊東商業	14：00			沼津市立	東部大会第2回戦
	10(土)		12：30			沼津市立	東部大会第3回戦
	11(日)		12：30			沼津市立	東部大会準々決勝
	17(土)		12：00			愛鷹球場	東部大会準決勝
	18(日)		14：00			愛鷹球場	東部大会決勝
	18(日)	下田北		下田北		未定	
	24(土)	静岡学園		静岡学園		静岡学園	
	25(日)	伊東商業	9：00	浜松開成館	14：30	本校	
5	4(火)	富士宮東	9：00	常葉学園橘	12：00	富士宮東	
	8(土)	沼津東	9：00	塩山	14：30	本校	定期戦
	9(日)	静岡		静岡		静岡	
	23(日)	富士				本校	文化祭招待試合
	29(土)	三島				未定	
	30(日)	沼津工業	9：00	清水東	14：30	本校	
6	5(土)	日大三島	14：30			日大三島	
	6(日)	誠恵	9：00	吉田	14：30	本校	
	12(土)	伊豆中央				韮山球場	定期戦
	13(日)	吉原工業		吉原工業		未定	
	27(日)	小山	9：00	伊東城ヶ崎	14：30	本校	
7	3(土)	立花学園	14：30			本校	
	11(日)	長泉		長泉		長泉	

特集

龍城物語スペシャル編

静岡新聞
平成11年2月25日掲載

勁くますぐに飾りなく「龍城の絆」今も脈々と

平成7年夏、韮山高校野球部は夏の甲子園に駒を進めた。昭和二十五年、東泉東二投手を擁して勝ち抜いたあの「選抜初出場初優勝」の白球伝説から四十五年の月日が流れていた。野球エリート常連校を相手に無心で戦った韮高ナインは三回戦で惜しくも敗れたものの人々にさわやかな感動を与えた。「のびのび」とプレーするナインが四十五年前の戦いぶりを彷彿とさせたからである。

韮山高校百二十五周年を記念する「龍城物語スペシャル編第四回」は、「のびのび野球」で知られ、幾多の人材を輩出している韮高野球部にスポットを当てた。一昨年には創部百周年記念誌も完成。五百人を超す現役OBの中から有志に集まっていただき、歴史、エピソードなどを語っていただいた。司会はSBSアナウンサーの伊藤圭介氏。

伊豆で最初のベースボール

韮高野球部の歴史は古く、創部は明治三十年(西暦一八九七年)。伊豆の最初の野球チームが韮中(韮山高)野球部であった。既に浜松、静岡中学では野球部が発足しており、県内では三番目。

伊藤　戦前の野球部はどんな様子だったんでしょうか。

岡本　練習はいつも裸足。すると悪友がいたずらして、グラウンドの草を結んでおくんです。それで外野を走ると足を切ってしまう。それに炎天下のグラウンドの熱いことといったら。砂に砂鉄が混ざってグラウンドがきらきら光るんです。そんな辛い記憶がたくさん残っていますね。ランニングもほとんどしませんでした、裸足ですから。それにいつもお腹をすかしていましたし(笑)。レギュラーになるとやっとスパイクが履ける。それでもバットはささくれたものでした。道具もあまりなく、少ない人数でしたが、それでも野球をやっているんだという実感はありましたね。

伊藤　昭和十六年、太平洋戦争が始まり、翌十七年に文部省の敵国性スポーツ禁止令により韮中野球部はその幕を一時閉じることになってしまいました。

岡本　そのとき味わった悔しさは生涯忘れられないものでした。キャッチボールも許されない状況で、国防競技の手榴弾の投げ方などにその想いをぶつけていました。四年生の二学期(※当時の中学は五年制)からは学徒動員で沼津の国産電機に通学ならず通勤していました。わずか一年足らずの短い期間でしたが、好きな野球に打ち込めたことは半世紀を経た現在も、あの頃の足の痛みやグラウンドの熱さとともに生き生きとした思い出として甦ってきますね。

二つの甲子園。龍城球児が繋ぐもの

昭和二十年の終戦とともに全国各地で再び球音が甦った。翌年復活した韮中野球部は昭和二十三年、学制改革によって韮高野球部に生まれ変わる。そして昭和二十五年、全国制覇を初出場で達成する。無名の高校が逆転に次ぐ逆転で全国に名を轟かせていく姿は、四十五年後の平成七年夏の甲子園出場を果たしたナインの姿と多くが重なっていく。

伊藤　選抜甲子園初出場初優勝という快挙は、今も多くの人の胸に残っていますね。

鈴木　今振り返ってもなぜ優勝できたのかわかりません。というのは前年までは県の予選でも一回戦負けだったんですね(笑)。それが県大会で優勝、東海四県は準優勝で春の甲子園に選抜された。行ってもすぐに負けるだろうと思っていたのが、あれよあれよと優勝してしまった。

伊藤　逆転につぐ逆転。

鈴木　神風が吹いたんじゃないか。しいて理由を挙げれば東泉というすごい投手がいた。そして戦後間もない混乱期に廣田先生が私財をなげうって指導してくれた。我々にしてみれば先生が引いたレールに乗っかって、がむしゃらに練習したら優勝してしまったという感じですね。

岡本　野球部の歴史を振り返る時、廣田先生の功績は非常に大きいですね。

鈴木　合宿も先生のお宅。食糧難の時代でしたから、先生の家で腹一杯食べられることが合宿の楽しみだった。茶碗七杯みそ汁五杯なんて部員もいたんですよ。

伊藤　その四半世紀後、今度は先生のお孫さんが女子マネージャーとして韮高野球部と関わるようになった。

廣田　祖父の記憶は幼稚園の頃までですが、昔の沼津球場に連れていってもらったり、テレビの前にどっかり座って野球の試合を見ていた姿をよく覚えています。私も一緒に横で見ていましたね。亡くなった後もたくさんのOBの方が祖母を訪ねて下さり、その時に良くお話もしていただきました。

伊藤　そして平成七年夏、再び全国大会に出場。甲子園では「のびのび野球」が注目されましたが、その間も多くの韮高球児が白球を追い続けていた。韮高野球とは一体何なのでしょうか。

堀井　何と言ってもみんなが野球に対する真摯な姿勢を持っている。今、実業団チームの監督をしていますが、選手のモチベーションが落ちる時があるんです。そんな時こそ、韮高時代に監督、先輩から叩き込まれた野球に対する姿勢や、野球とはこういうものだという信念、原点みたいなものに、まず自分自身が立ち返った上で指導するようにしています。

水口　当時は田方一帯で練習が一番長かったのが韮高野球部でした。帰りの電車で他高の部員に、何でそんなに練習するんだって言われるくらい。だから負けるわけにはいかなかったし、やはり韮高に入ったという誇りが、あれだけがんばらせたのだと思います。

伊藤　その十年後に井深君たちが入学してくる。

井深　韮高は進学校でしたから、そこで野球をするなんてかなり物好きな連中の集まりでした。逆にそこまで野球好きですから、うまくなりたいという気持ちは人一倍でした。それが自主性や与えられた環境の中でいかに結果を出せるかという方向へ向かったんだと思います。

伊藤　自分たちで工夫し、考え、積極的に練習に取り組むということが自然とできるようになる。その積み重ねが甲子園出場。

平井　今思い返すと高校時代の仲間は、ハートの強い連中が多かったように思います。勉強で一番を目指している連中は何事においても一番を目指すということが野球にも現れていたと思います。確かに練習時間は短いが、練習していないわけではない。自主トレや自己管理がきちんとできるチームメイトでしたし、僕自身は良い部に入ったと思います。

伊藤　女子マネージャーから見ていかがですか。

廣田　練習量は確かに少なかったですが、日が暮れてからのランニング、休み時間の素振りなど、みんなが有効に時間を使っていました。ですから練習量が少ないことがハンデになるとは思っていませんでした。

伊藤　面白いことに練習量の多い時代から少ない時代へと変化していった。しかしその原点にあるものは変わっていない。むしろ歴史の中で育っていった感も受けます。それが伝統という言葉の意味なのかもしれませんね。

未来への想い。絆はさらに太く、強く

今も韮山高校では多くの先輩たちが汗を流したグラウンドで現役球児たちが無心に白球を追っている。そしてこれからも多くの子どもたちが大きな夢と希望を抱いて野球部の門を叩いていく。韮高野球部を繋ぐ「龍城の絆」は、校歌に残る龍城の松のように未来へ向けて、さらに太く、さらに強く育っていく。

伊藤　最後に、現役球児たち、また未来の韮高球児たちに向けてメッセージを。

堀井　野球のレベルや戦術は変わっても、硬いボールを初めて握った時の感動をいかに持ち続けるかがプレーヤーにとって何よりも大切です。韮高時代があったから今も現役で野球に関わっていますが、現役である以上は常に日本一を目指して努力していきたい。その結果として野球に対するものとか、後輩に伝えるものが出てくればよいのではないかと考えています。

伊藤　昔も今も本質的に変わらない。

鈴木　例えば平井君は県大会で三試合連続延長戦を勝ち抜いた、これが韮高の伝統ではないか。そういった力を受け継いでいってほしい。

岡本　言葉にすると軽いですが、一つ一つの積み重ねが伝統となって次代に花を咲かせる。この意識を忘れずに、目標を持って野球を続けていってほしいと思います。

井深　自分でやらなければうまくなれないという、当たり前ですが一番の根本にあるものを学んだのが韮高時代でした。今僕の周りは甲子園常連高の野球エリートばかりですが、彼らは機械的な練習ばかりやらされてきている。その点韮高では、自分で考え工夫せざるを得ない。だから逆にそういったスタイルを身につけることができる。高校時代に培ったものが野球に限らず生きています。ですから後輩には結果云々よりも精神的な部分、常に目標に向かって努力する姿勢を期待したいですね。

平井　常に目的や夢をもって練習も学校生活も送ってほしい。上に行けばプロ野球を始めすごい世界がある。しかし高校野球でしか味わえないものもある。三年間を大切に、今まで通りの韮高野球を後輩のみんなが引き継いでいってほしいと思います。

水口　基礎基本を重んじた野球を突き詰めていってほしいですね。勝敗にこだわりがちですが、結局は基本ができたチームが勝ち上がっていきますし、基礎基本の上にこそ、本当の野球の面白みがある。もう一つ。よく精神力、精神野球と言われますが、校歌のもとで野球をやる、言い換えれば学校を誇りに、校歌を心のよりどころにして野球をする。ですから今の子供たちにも校歌をしっかり歌えるようになってほしいと思いますね。

伊藤　良い意味での精神力。それがベースにないと頭も使えないし、体も動かない。長い伝統に培われた韮高野球の精神が今後も受け継がれ、やがて、さらに大きな実を結ぶことをみんなで期待していましょう。

☆対談出席者
岡本重幸(中49回)　野球部OB会会長
鈴木直樹(高3回)　選抜大会優勝チーム主将
堀井哲也(高32回)　三菱自動車岡崎野球部監督
水口和典(高32回)　長泉高校野球部監督
井深　有(高43回)　日本石油野球部
廣田晶子(高43回)　元野球部女子マネージャー
平井　渉(高48回)　甲子園出場投手、慶大野球部
司会　伊藤圭介(高27回)SBSアナウンサー
(敬称略)